

ある日

娘二人と共に  
妖狐の封印に訪れた

元対魔巫女の  
詩織だったが――

二人とも  
そこに居て！

お母さん!?

お母さん開けて！  
一人じゃ無理だよ！

お母さあん！

この子達じゃ  
まだ無理な相手…

ククク…

どうにか私だけで  
相手しないと…っ

出来れば  
使いたく  
なかったけど…

封印術！

私の魂に  
直接封じ込めるわ！

昔より霊力は  
増えてるから  
大丈夫なはず…！

ククク…

!?

けど…  
なんとか  
なったわね

う…ッ  
なんて重い  
邪気…ッ



ああっ!?

うそ!!

魂の檻が……ッ

な  
なんで……!?

檻というより  
風船だな

貴様の事は  
知っておたぞ

封魔の封魔巫女よ……

随分美味そうに  
熟れおて……♡

か  
身体が  
勝手に……ッ

ああ♡

なんれこんな  
敏感にい……ッ♡♡

お♡♡♡

おめ……!?

鍛えしせず  
弛んだ霊力なぞ

迂闊だったのお

ワシにとっては  
霜降り肉に過ぎん……



さあ快楽に堕ちて  
たふふりと蓄えた  
その霊力と肉を

ワシに寄せ……ッ

んおお♡

手が止まる……♡♡♡

ダメ……♡

今いっただろ  
娘たちがああ……♡

はあ……♡

んああ♡♡

封印が……♡♡

お♡ほお♡

おオ♡♡

それムリいい♡

私の魂直接

侵されて……♡

んお♡

あ……♡

ダメ♡♡

ダメ♡♡

ダメ♡♡

ダメ♡♡

逝ぐううう♡



